

社会資本総合整備計画 事後評価委員会

日時：平成29年1月26日（木）午後2時
場所：豊田市役所 東31会議室

次 第

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 出席者の紹介
- 4 制度の概要・設立趣旨説明
- 5 委員会規約（案）説明
- 6 委員長選出・挨拶
- 7 議題 事後評価調書の説明
 - (1) 環境都市にふさわしい鉄道駅などを中心としたコンパクトなまちづくり
 - (2) 環境にやさしく利便性の高い交通体系の構築
～自動車交通と公共交通が共存する交通の最適化～
 - (3) 安全で快適な暮らしを支える生活道路の整備
 - (4) 良好な水循環の再生・保全と安全・安心なサービスの提供
 - (5) 計画的な施設の改築更新による安全・安心なサービスの提供
- 8 閉会

【配布資料】

議事次第

資料1 出席者名簿

資料2 配席表

資料3 制度の概要・設立趣旨

資料4 委員会規約(案)

資料5～9 事後評価調書及び社会資本総合整備計画

(事務局) 豊田市 建設部 建設企画課
都市整備部 区画整理1課
上下水道局 下水道建設課

社会資本総合整備計画事後評価委員会 出席者名簿

所 属	職氏名	備 考
大同大学工学部建築学科土木・環境専攻	教 授 嶋田 喜昭	学識経験者 専門分野：都市交通計画
豊田工業高等専門学校環境都市工学科	教 授 野田 宏治	学識経験者 専門分野：交通工学
豊田工業高等専門学校環境都市工学科	准教授 松本 嘉孝	学識経験者 専門分野：水質工学

※順不同

▼事務局・関係課 (◎：事務局)

◎豊田市建設部 建設企画課	課 長 倉口 敦	
◎豊田市都市整備部 区画整理1課	課 長 塚本 直樹	
◎豊田市上下水道局 下水道建設課	課 長 杉本 尚久	
愛知県豊田加茂建設事務所 道路整備課	課 長 岩田 尚也	欠席
豊田市建設部 土木課	担当長 鈴木 桂也	
豊田市建設部 街路課	担当長 須藤 淳姿	
豊田市建設部 地域建設課	担当長 長嶋 紀之	
豊田市建設部 道路予防保全課	担当長 石掛 晴孝	
豊田市建設部 河川課	担当長 市村 哲	
豊田市都市整備部 都市整備課	担当長 初田 大成	
豊田市都市整備部 交通政策課	副主幹 中根 章	
豊田市都市整備部 区画整理2課	担当長 糟谷 昇	
豊田市都市整備部 土橋区画整理事務所	担当長 大林 久行	
豊田市都市整備部 寺部区画整理事務所	担当長 寺下 泰之	
豊田市都市整備部 花園区画整理事務所	担当長 吉野 奈美	
豊田市都市整備部 都市再開発課	担当長 小武家康希	
豊田市都市整備部 公園課	担当長 内田 良平	
豊田市上下水道局 下水道施設課	担当長 加藤ひろみ	
豊田市社会部 防災対策課	担当長 山岡 雅史	
豊田市社会部 旭支所	担当長 高島 圭太	
豊田市企画政策部 都市計画課	担当長 下川 啓輔	
豊田市企画政策部環境モデル都市推進課	副課長 粕谷 忠弘	
豊田市子ども部 保育課	担当長 後藤 充宏	
豊田市学校教育部 学校づくり推進課	担当長 伊地知 毅	

※順不同

議題7（5）における主な意見

計画名：計画的な施設の改築更新による安全・安心なサービスの提供

【質疑応答】

(Q) 指標7「中部排水区ほかにおける雨水管路の長寿命化計画策定率」及び指標9「境川流域における宅地浸水被害解消のための雨水管路整備率」の達成できなかった理由について、中部ポンプ場の改築更新と雨水管の地震対策を優先したと記載があるが、優先事業の重要性と今後の整備予定について説明してほしい。

(A) 中部ポンプ場について、豊田市の中心市街地は矢作川よりも地盤が低く平坦で、ポンプによる強制排水が重要な役割を担っている。中部第1ポンプ場は昭和42年から運転されているため老朽化が著しく、故障すると甚大な被害が想定されるため、最優先事業として改築を進めている。今後は引き続き事業を進め、第3ポンプ場の増設工事を平成30年まで行う予定である。

雨水管の地震対策については、他指標の改築更新事業と比較して、重要な幹線等を液状化対策が見込める点で優位であり、財源の確保が難しい中、優先的に事業を実施している。

(Q) 大雨や集中豪雨に対して、どの程度の雨量に耐えられる設計か。

(A) 中部ポンプ場の受け持つ中部排水区については48mm/h r(1/7確率)で整備済。安永川の整備等により63mm/h r(1/10確率)を目指している。

【計画名称】**計画的な施設の改築更新による安全・安心なサービスの提供****計画概要****◆計画期間** 平成25年度～平成27年度**◆計画の目標**

都市の浸水対策及び下水道施設のストックマネジメントを行うことにより、安全・安心、快適な暮らしを実現し、災害に強いまちづくりを目指す。

◆計画の成果目標（定量的指標）

指標①：重要な管路の地震対策実施率

現況値(H24末) 60% ⇒ 目標値 (H27末) 100%

指標②：下水道管路の長寿命化対策実施率

現況値(H24末) 6% ⇒ 目標値 (H27末) 14%

指標③：マンホール蓋の改築・更新実施率

現況値(H24末) 33% ⇒ 目標値 (H27末) 100%

指標④：災害用便槽の設置率

現況値(H24末) 9% ⇒ 目標値 (H27末) 14%

◆計画の成果目標（定量的指標）

指標⑤：中部ポンプ場の改築・更新実施率

現況値(H24末) 0% ⇒ 目標値 (H27末) 33%

指標⑥：雨水貯留施設等設置基数率

現況値(H24末) 40% ⇒ 目標値 (H27末) 100%

指標⑦：中部排水区ほかにおける雨水管路の長寿命化計画策定率

現況値(H24末) 0% ⇒ 目標値 (H27末) 59%

指標⑧：梅坪1号雨水幹線の地震対策実施率

現況値(H24末) 0% ⇒ 目標値 (H27末) 12%

指標⑨：境川流域における宅地浸水被害解消のための雨水管路整備率

現況値(H24末) 0% ⇒ 目標値 (H27末) 25%

指標⑩：下水熱利用にかかる下水管路改築率

現況値(H27) 0% ⇒ 目標値 (H27末) 100%

指標⑪：市全域を対象に長寿命化計画策定のための調査実施率

現況値(H27) 0% ⇒ 目標値 (H27末) 100%

評価内容

◆交付対象事業の進捗状況

交付対象事業	事業費※	事業の実施状況	進捗率※
【A 基幹事業】	1,384百万円		
地震対策	259百万円	下水道管路の耐震工事、災害用便槽の整備を行い、計画通りの進捗となった。	100%
長寿命化対策	1,088百万円	下水道管路、ポンプ場などの改築更新を行ったが、雨水管路の長寿命化計画策定が達成できなかった。	96%
浸水対策	37百万円	雨水貯留浸透施設設置の補助事業は概ね計画通りであったが、雨水管路整備の進捗に遅れが生じた。	67%
B 関連社会資本整備事業	0 百万円		-%
C 効果促進事業	0.5 百万円	災害用便槽の整備に伴い、資機材を配置できたために、計画通りの進捗となった。	100 %
合 計	1,384.5 百万円		

※事業費は実績額

※進捗率（%）は各事業の計画に対する実施割合 【整備量ベース】

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

【基幹事業・効果促進事業（地震対策）】

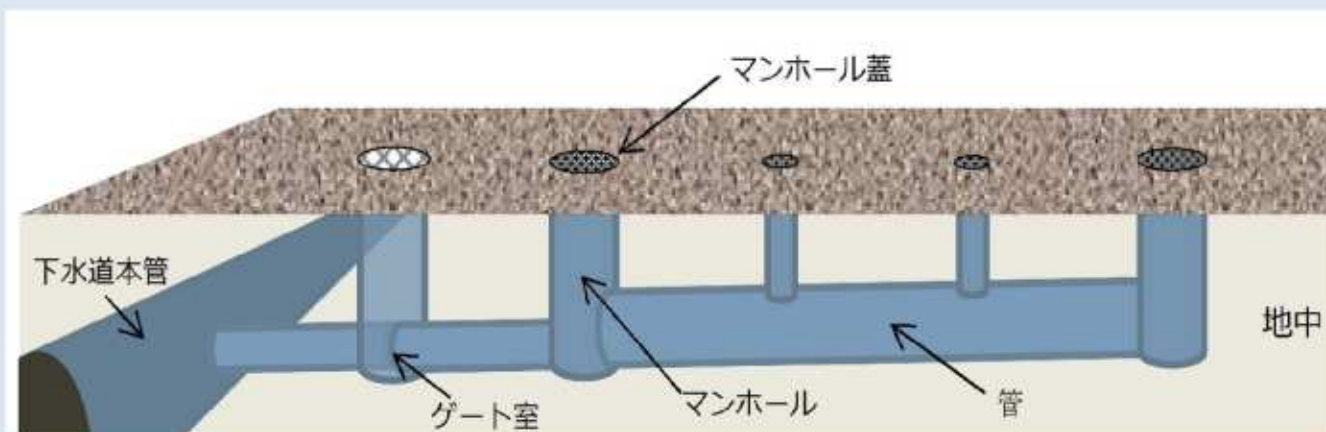
- 2-A-1 耐震補強
- 2-A-6 2-C-1 災害用便槽（矢作川処理区）
- 2-A-8 下水道（雨水）管路改築

■事業効果

下水道整備区域内の指定避難場所(四郷小学校、古瀬間小学校)にマンホールトイレを設置し、**災害時の避難地としての機能を確保**する。



— 災害用便槽用設置状況 —



— 災害用便槽（下水道接続型） —



— 災害用便槽蓋平面図 —

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

【基幹事業（長寿命化対策）】

2-A-2 長寿命化対策

2-A-4 中部ポンプ場（浸水）

2-A-5 下水道マンホール蓋改築・更新

2-A-7 中部排水区ほか雨水管路長寿命化

2-A-10 下水道管路改築（下水熱利用）

2-A-11 長寿命化計画策定のための点検・調査



■事業効果

中部ポンプ場の計画的な改築・更新を行うことにより、
市民に安全・安心・快適な暮らしの実現をする。

着手前



完了



◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

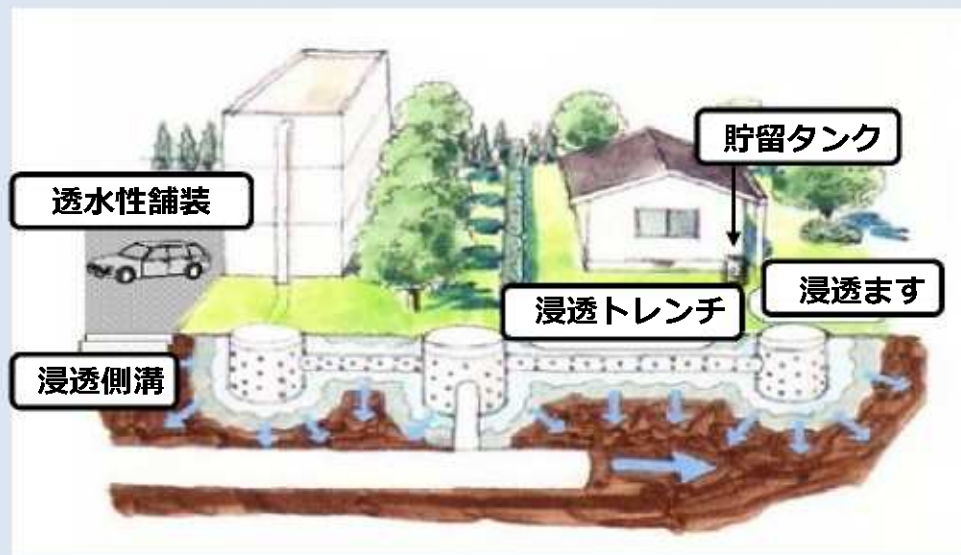
【基幹事業（浸水対策）】

2-A-3 雨水貯留施設等設置

2-A-9 下水道（雨水）管路整備

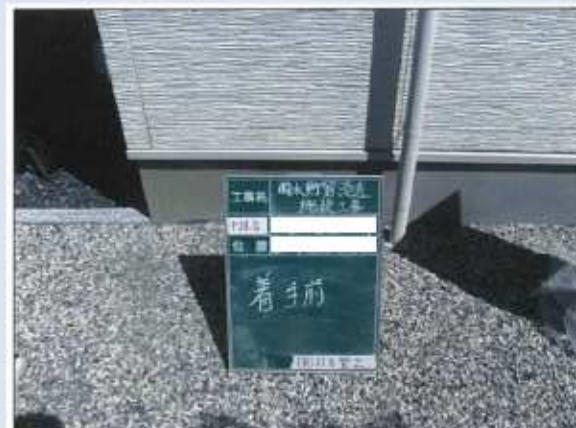
■事業効果

雨水貯留浸透施設の設置者へ費用の一部を補助することにより、**雨水の流出を抑制する。**



— 貯留・浸透施設の設置イメージ —

着手前（貯留タンク）



完了（貯留タンク）



Ⅱ 定量的指標の達成状況

指標①（重要な管路の地震対策実施率）

当初現況値	60%	目標値と実績値に差が出た要因	計画通り重要な管路（污水）の耐震対策を行い、目標値を達成することができた。
最終目標値	100%		
最終実績値	100%		

※重要な管路のうち耐震対策が行われている延長（km）／重要な管路の延長（km）

（当初現況値）1.845（km）／3.0794（km）＝60%

（最終実績値）3.079（km）／3.0794（km）＝100%

指標②（下水道管路における長寿命化対策実施率）

当初現況値	6%	目標値と実績値に差が出た要因	計画通り下水道管路（污水）の長寿命化対策を行い、目標値を達成することができた。
最終目標値	14%		
最終実績値	14%		

※長寿命化対策済みの管路延長（km）／長寿命化対策すべき管路延長（km）

（当初現況値）5.229（km）／94.075（km）＝6%

（最終実績値）12.672（km）／94.075（km）＝14%

指標③（マンホール蓋の改築・更新実施率）

当初現況値	33%	目標値と実績値に差が出た要因	計画通りマンホール蓋の改築更新を実施し、目標値を達成することができた。
最終目標値	100%		
最終実績値	100%		

※改築・更新が行われているマンホール蓋数（箇所）／改築・更新すべきマンホール蓋数（箇所）

（当初現況値）25（km）／75（km）＝33%

（最終実績値）75（km）／75（km）＝100%

II 定量的指標の達成状況

指標④（災害用便槽設置率）

当初現況値	9%	目標値と実績値に差が出た要因	計画通り災害用便槽を設置し、目標値を達成することができた。
最終目標値	14%		
最終実績値	14%		

※災害用便槽設置済数（箇所）／災害用便槽設置計画数（箇所）

（当初現況値）3（箇所）／35（箇所）＝9%

（最終実績値）5（箇所）／35（箇所）＝14%

指標⑤（中部ポンプ場の改築・更新実施率）

当初現況値	0%	目標値と実績値に差が出た要因	計画通りポンプ場の改築更新を行い、目標値を達成することができた。
最終目標値	33%		
最終実績値	33%		

※改築・更新が行われている施設数（系統数）／改築・更新すべき施設数（系統数）

（当初現況値）0（系統数）／3（系統数）＝0%

（最終実績値）1（系統数）／3（系統数）＝33%

指標⑥（雨水貯留施設等設置基数率）

当初現況値	40%	目標値と実績値に差が出た要因	本事業は雨水貯留浸透施設の設置により、雨水の流出抑制及び雨水の有効利用を図る者に対して費用の一部を補助するものであるが、申請が予定よりも少なかったため当初計画よりも進捗が遅れた。
最終目標値	100%		
最終実績値	90%		

※雨水貯留施設等の設置済数（基）／雨水貯留施設等の設置計画数（基）

（当初現況値）90（基）／225（基）＝40%

（最終実績値）203（基）／225（基）＝90%

Ⅱ 定量的指標の達成状況

指標⑦（中部排水区ほかにおける雨水管路の長寿命化計画策定率）

当初現況値	0%	目標値と実績値に差が出た要因	浸水被害解消対策事業の内、中部ポンプ場の改築・更新や雨水管の地震対策を優先事業としたため、長寿命化計画策定が困難となった。
最終目標値	59%		
最終実績値	0%		

※長寿命化計画策定済みの管路延長（km）／長寿命化計画策定すべき管路延長（km）

（当初現況値）0（km）／17（km）＝0%

（最終実績値）0（km）／17（km）＝0%

指標⑧（梅坪1号雨水幹線の地震対策実施率）

当初現況値	0%	目標値と実績値に差が出た要因	計画通り梅坪1号雨水幹線の地震対策を実施し、目標値を達成することができた。
最終目標値	12%		
最終実績値	12%		

※地震対策済みの管路延長（m）／地震対策すべき管路延長（m）

（当初現況値）0（m）／627（m）＝0%

（最終実績値）77（m）／627（m）＝12%

指標⑨（境川流域における宅地浸水被害解消のための雨水管路整備率（第1期事業））

当初現況値	0%	目標値と実績値に差が出た要因	浸水被害解消対策事業の内、中部ポンプ場の改築・更新や雨水管の地震対策を優先事業としたため、当初計画よりも進捗が遅れた。
最終目標値	25%		
最終実績値	17%		

※整備済みの管路延長（m）／整備すべき管路延長（m）

（当初現況値）0（m）／580（m）＝0%

（最終実績値）97（m）／580（m）＝17%

II 定量的指標の達成状況

指標⑩（下水熱利用のための下水管路改築率）

当初現況値	0%	目標値と実績値に差が出た要因	計画通り下水道管路改築を行い、目標値を達成することができた。
最終目標値	100%		
最終実績値	100%		

※整備済みの管路延長（m）／整備すべき管路延長（m）

（当初現況値）0（m）／175（m）＝0%

（最終実績値）175（m）／175（m）＝100%

指標⑪（下水道管路における長寿命化調査実施率）

当初現況値	0%	目標値と実績値に差が出た要因	計画通り下水道管路調査を実施し、目標値を達成することができた。
最終目標値	100%		
最終実績値	100%		

※長寿命化調査実施済みの管路延長（m）／長寿命化調査すべき管路延長（m）

（当初現況値）0（m）／3,251（m）＝0%

（最終実績値）3,251（m）／3,251（m）＝100%

◆今後の方針

- ・浸水対策や下水道施設の改築により災害に強いまちづくりを目指す本計画については、円滑に事業が進んでおり、目標を概ね達成することができた。継続事業については、平成28年度からの社会資本総合整備計画に位置付け、引き続き事業を実施する。
- ・雨水管路の長寿命化計画策定、境川流域の浸水対策については、計画的かつ段階的整備により早期に効果の発現を目指していく。

◆事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価委員会を開催し、評価を実施。
事後評価の実施時期	平成29年1月
公表の方法	豊田市のホームページに掲載